

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第49週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第49週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第49週（令和4年12月5日から令和4年12月11日まで）

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.16人と前週（4.32人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.23人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.57人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“保育所における新型コロナウイルス感染症対策”について取り上げました。

川崎市における第49週の新型コロナウイルス感染症の報告数は、9834件と増加傾向にあり、10歳未満の小児の報告数も増えています。家庭内で学童から未就学児へ感染し、保育所等で感染が拡大する事例もあり、集団生活の場では、引き続き対策が求められています。

厚生労働省が作成している「保育所における感染対策についてのQ&A」によると、感染対策のポイントは、こまめな換気の実施、遊具や玩具の消毒です。また、児童のマスクの着用は、他者との身体的距離にかかわらず、一律には求めています。

保育の場では、適切な感染対策を取りつつ、子どもの健やかな成長を妨げないようにバランスのとれた対策を実施しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

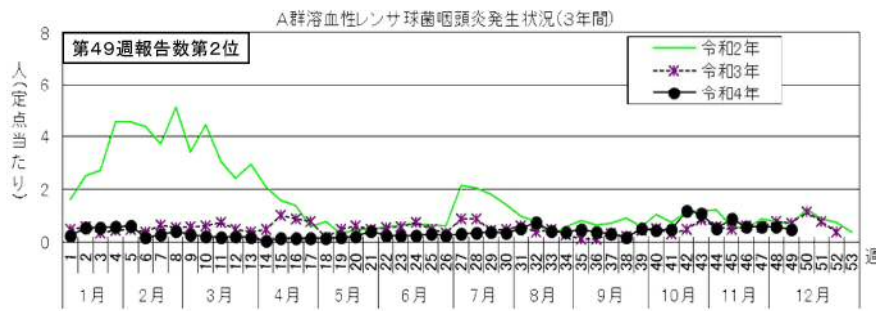
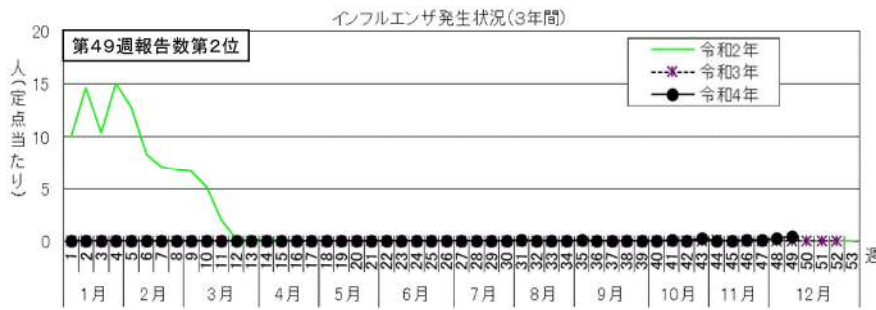
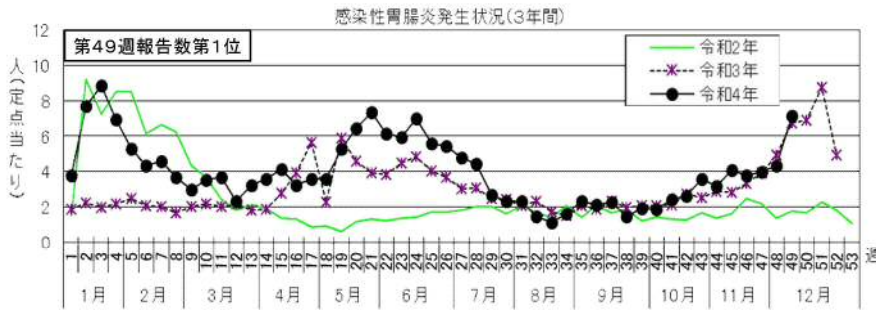
令和4年12月5日（月）～令和4年12月11日（日）〔令和4年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.16人と前週（4.32人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.23人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.57人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



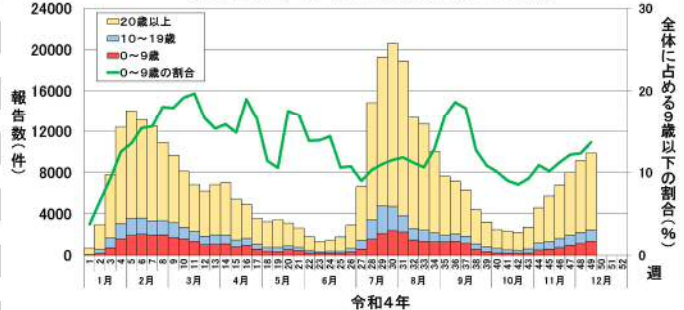
保育所における新型コロナウイルス感染症対策

川崎市における第49週の新型コロナウイルス感染症の報告数は、9857件と増加傾向にあり、10歳未満の小児の報告数も増えています。家庭内で学童から未就学児へ感染し、保育所等で感染が拡大する事例もあり、集団生活の場では、引き続き対策が求められています。

厚生労働省が作成している「保育所における感染対策についてのQ&A」によると、感染対策のポイントは、こまめな換気の実施、遊具や玩具の消毒です。また、児童のマスクの着用は、他者との身体的距離にかかわらず、一律には求めていません。

保育の場では、適切な感染対策を取りつつ、子どもの健やかな成長を妨げないようにバランスのとれた対策を実施しましょう。

川崎市における令和4年の
新型コロナウイルス感染症発生状況

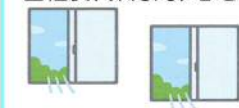


感染対策のポイント

換気方法

可能な限り常時2方向の窓を開ける。

(困難な場合は1時間に2回程度、数分間、窓を全開)



窓が1つしかない場合はドアを開け、扇風機などを外に向ける。

玩具、遊具の消毒方法

直接口に触れる玩具、遊具は、使う度に湯等で洗い流して干す。洗えない場合は、水拭きも可



玩具、遊具は塩素系消毒薬の希釈液又は消毒用アルコールで消毒する。